

高齢者を取りまくコミュニティの実態

(鹿児島県笠沙町の事例) その2

正会員○櫻井 亜衣³⁾同 友清 貴和¹⁾同 古川 恵子²⁾

1. はじめに

前報に引き続き、地方地域における過疎化と高齢化が進行した高齢者を取りまくコミュニティについて考察する。

2. 研究の目的

前報^(*)で明らかになった近所づきあいなどについてさらに詳しくみることにより、それぞれの地域で行われている人々のつきあいの中での生活支援の実態を調査し、その要因を考察する。

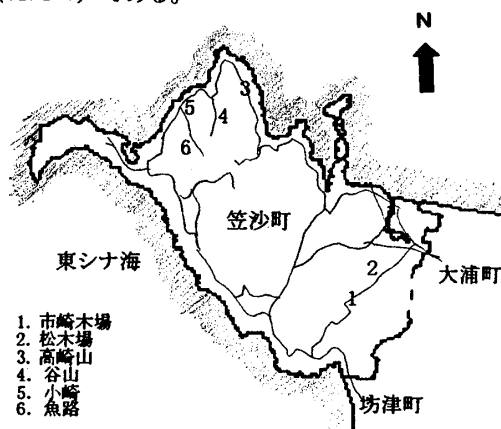
3. 研究の方法

前回のアンケート調査では、笠沙町における40歳以上の町民のつきあいの程度が集落によって差があることが明らかになった。その得られた生活実態の近所づきあいなどの結果をもとに、笠沙町内の6集落を選定した。この6集落の全世帯を対象とし、家族構成、友人、親戚、つきあいなどについて、戸別訪問による聞き取り調査を行い分析・考察した。

4. 調査概要

4-1. 調査方法

平成11年6月に調査対象の6集落をまわり、集落の特徴や施設配置の確認をし、調査票を作成した。調査期間は、平成11年7、8月。調査対象集落は、市崎木場、松木場、高崎山、谷山、小崎、魚路の6集落。調査対象世帯数は、6集落全世帯の121世帯。回答を得られたのは75世帯(61.1%)である。



【図1】笠沙町集落配置図

4-2. 調査地区の概要

笠沙町は、男1,870人、女2,213人の総人口4,083人からなり、高齢化率38.97%である。鹿児島県の薩摩半島の西南端に位置する。25の集落からなる。

今回調査した各集落は、山麓地集落(市崎木場・松木場)、急傾斜地集落(高崎山・谷山・魚路)、平坦地集落(小崎)に分類される。

高崎山・小崎は、国道226号線沿いにあり、谷山は国道から375m入った所、魚路は300m入った所にある。

【表1】集落の概要

	集落の概要 (*2)				
	世帯数	人口	高齢者数	高齢化率	独居高齢者数
1.市崎木場	21	62	28	45.16%	2
2.松木場	38	79	44	55.70%	12
3.高崎山	11	16	13	81.25%	5
4.谷山	22	42	18	42.86%	5
5.小崎	11	19	8	42.11%	4
6.魚路	18	43	22	51.16%	3
合計	121	261	133	-	31

(*2: 笠沙町資料/1999年4月1日)

【表2】調査世帯の概要

	調査世帯の概要			
	世帯数	世帯人数合計	高齢者数	独居高齢者数
1.市崎木場	16	39	25	2
2.松木場	20	43	27	6 (1:入院中)
3.高崎山	7	10	10	4
4.谷山	11	25	9	3
5.小崎	6	12	8	2
6.魚路	15	33	19	4 (1:入院中)
合計	75	162	98	21

5. 地域カルテ

ここで、集落全世帯のなかでも調査世帯数が多く、地形的にも異なる2集落について述べる。

5-1. 市崎木場

市崎木場集落は、笠沙町南東部に位置している【図1】。集落は、道路と川に沿って片側に畑が広がり、反対側に住宅が平坦部から緩やかな斜面に広がっている山麓地集落である【図2】。

市崎木場の高齢化率は45.2%であり、笠沙町全体の高齢化率38.97%を上回っている。市崎木場集落内の65歳から74歳までの前期高齢者の割合は32.3%、75歳以上の後期高齢者の割合が12.9%と高齢者が半数近い。65歳以

1) 鹿児島大学教授・工博 2) 鹿児島女子短期大学・教授 3) 鹿児島大学大学院生

上の高齢者の単身世帯数は、21世帯のうち2世帯である。

集落は、町の幹線道路に面しているため松木場や黒瀬などの他の集落へのアクセスが容易である。また、となりの松木場集落と同じ道路でつながっており、松木場集落の空家に引っ越し人もいる。道沿いの公民館は階段を上った所にあり、公民館の下にごみ収集所がある。

午前中から昼間にかけて、高齢者も近くの畑やポンカン畑などに出ており、集落内は静かである。高齢者が畑に行ったり、帰ってきたりする光景をよく見かける。

バス停は、歩いて20分くらいの遠い所にある。それでも通院で利用する人がいる。

地域施設としては、公民館と納骨堂のみで、他に、購買施設も公衆電話もない。



【図2】市崎木場

5-2. 魚路

魚路集落は笠沙町内の北西部に位置している【図1】。北、南、東の三方を山に囲まれており、平坦地の少ない急傾斜地集落である。国道から300m入った所に広がる小規模な集落で、他へ通じる道路はない。

魚路の高齢化率は笠沙町全体の高齢化率を上回る51.2%であり、町内においても高齢化率が高いことがわかる。魚路集落内の65歳から74歳までの前期高齢者の割合が23.3%、75歳以上の後期高齢者の割合が27.9%と高齢者人口が約半数を占めている。65歳以上の高齢者単身世帯数は、18世帯のうち3世帯ある。

集落内は急な傾斜が多く、坂や階段が続いている。住宅の位置においても高低に格差がある。自動車は、バス停から300mまでしか入れない。道幅が狭いので、駐車できない。300mより奥へは急な坂道がほとんどなので、歩くしかない。特に集落の人々が利用する公民館前の坂は、集落内で最も急な坂の一つである【写真1】。中には、バイクを利用して急な坂を行き来する高齢者もいる。今回の聞き取り調査では、魚路集落内で57.1%が集落内に不便な道があると回答しており、また、12.5%が家までのアプローチの改善希望をしているという結果が出ている。これは、急な坂であること、坂道がでこぼこしていること、一部の舗装を除いて雨の日は歩きにくいこと、坂や

階段に手すり等の整備がされていない箇所があるためであると考えられる。

日常生活で普段利用する交通手段にバスが多くあげられていたが、集落のバス停までの距離を近いと感じている人、遠いと感じている人が同数いた。バス停までの距離は近い人で約260m、遠い人で約600mある。



非常に急な坂道で、健康な大人でも歩くのがたいへんな所。この坂道の奥に7軒の住宅があり、男性の高齢者の中にはここをバイクで上がり下りする人もいます。

【写真1】魚路

6. 調査結果と分析

6-1. 家族構成について

調査回答者は、65歳から74歳までの前期高齢者が45.1%、75歳以上の後期高齢者が36.6%である。75歳以上の人の割合が最も大きい集落は、松木場の54.5%で、高崎山の44.4%と続く。

6集落で居住年数40年以上の割合が48.6%と約半数を占める。また、集落別に見て割合が最も大きい集落は高崎山の70%、最も少ない集落は市崎木場の28.6%となっている。居住年数30年未満の人は谷山におらず、さらに高崎山においては、集落全員が50年以上の居住年数である。居住年数が非常に長いことから、すでに生活基盤を現在の集落に持ち、古くからの近所づきあいが続いていると考えられる。

6-2. 子どもについて

6集落すべてにおいて、現在子どもと別居している人で同居を希望している割合は極端に低い結果が出ている。一人が気楽という理由があげられているが、居住年数が長くすでに生活基盤ができていることも要因となっていると考えられる。

また、近所に住む子どもが毎週家に来たり、買い物に連れて行くなどのつながりがあり、高齢者の身体的、精神的な支えともなっている。

6-3. 親戚について

6集落において、親戚とよく会っているという人が多

く、82.4%という割合が出ている。特に兄弟姉妹と連絡を取っているという結果が出ており、直接会うことや電話などで連絡を取っている割合は50%を超える。

集落内ほとんどが親戚同士という集落があり、近所づきあいがより密な形でなされていることがうかがえる。

6-4. 友人について

全集落で見ると、親しい友人数は10人以上という回答が最も多く、続いて、集落全部があげられている。世帯数の少ない谷山や小崎でそれらの割合が大きい結果が出ている。このことから、世帯数が少ない集落では、集落単位でより親密な近所づきあいがなされていると考えられる。

友人とは直接会うことが多く、自分の家や相手の家を含む場所としている人の割合が68.4%となっている。また、各集落にある公民館も最低月に1回は集落の集まりに利用されている。

友人に会いに徒歩で出かける人が多く49.1%になっている。このことは、高齢者の徒歩圏内で友人に会いに行っていることを示す。ともに世間話をしたり、お茶を飲んだりするつきあいが行われている。

6-5. 日常生活について

8月下旬、普段の一日の生活時間を調べた市崎木場の例を【表3】に示す。

起床時刻は概ね5:00で、就寝は9時から10時である。午前中は朝食後から昼食前まで、畑仕事や草取りをし、午後は昼寝をしたりごろごろするなどゆっくりする人もいるが、炎天下でも数時間、畑仕事をする人がいる。70歳なかばの高齢者が元気で働いている姿があちこちで見られる。

一週間にいくこととして、2回のごみ収集のほかには曜日による変化はみられない。

一年間では、正月と盆に子どもが戻ってくるほかには、田植や稲刈りやポンカンの収穫を、手伝いをもらいながら行っている。地域では決められた行事があり、草刈りや溝の掃除、小崎では、集落の崖下にある海岸そうじがある。また、6集落中、3集落は墓地ではなく納骨堂のため、その管理が持ち回りとなっている。日常の掃除のほか、盆、暮れの掃除がある。簡易水道がなく、湧き水を使用する集落では、水の管理（貯水槽のそうじ、給水

管の修理等）を年に数回、住民が行っている【表4】。

6-6. 外部の人とのつきあいについて

外部の人の中で郵便配達の人と会うという人が最も多く、次いで移動販売の人、医師、看護婦と続く。会った時に、よく話す人とたまに話すという人を加えた場合は、73.0%となっている。このことから、高齢者が家族や親戚、友人以外の人との接触を大切にしており、積極的につながりを持つとする姿勢がみられる。また市崎木場、魚路では、主事とよく話すという人が多い。

6-7. 家事について

買い物は自分で行くという人の割合が6集落を通して大きい。集落を周回している移動販売を利用している人が多く、電話注文に応じ戸別配達をする農協も同じ割合で利用されている。次いで町外の店もよく利用されており、自動車を使って出かける人の割合も多い結果が出ている。

買い物に行く際に集落全員に呼びかけて出かける集落もあり、日常的な助け合いがなされている。

6-8. 外出について

よく外出するという割合は55.4%で、外出しないという人は41.9%とあまり差がない結果となっている。よく外出するという集落は、高崎山で85.7%、市崎木場で68.8%となっている。外出する目的は買い物と病院が多い。通院が、買い物に次いで日常的な外出目的となっていることがわかる。市崎木場の方が魚路より、畑つくりで外出する人が多い。

普段の交通手段は、自動車を利用している人が多い。その中で近所の人車の車に乗せてもらう人もおり、特に高崎山、魚路に多い。このことから、日頃からのつきあいの深さがうかがえる。

6-9. 日常の助け合いについて

全体では、元気が声をかけたり、声をかけられたりということや、話し相手になる、なってもらうことが90%ほど行われている。次いで、庭や畑でできた花や野菜をあげたり、もらったりということや、もらった物のおすそ分けをしたり、されたりということも約70~80%おこなわれている。おかつのやりとり、相談相手になったり、

なってもらったりということもよくおこなわれている。

集落ごとにみていくと、元気が声をかけたり、かけられたりということは谷山、小崎では全員が行っている。庭や畑でできた花や野菜をあげる割合の低い小崎でも約67%は人にあげている。最も多いのは谷山の91%である。もらった物もおすそわけの最も少ないのは高崎山の42.9%である。回覧版をまわしてあげることは、全集落で50%以上の人が行っている。話し相手になったり、なってもらったりする人も谷山の100%をはじめとして魚路の86.7%、高崎山の85.7%が多い。相談相手になってあげることについても小崎は83.3%、魚路73.3%、谷山72.7%となっている。

【表4】調査対象集落の施設・整備

	墓地等	上水道	下水道
1.市崎木場	納骨堂	簡易水道	町内未整備
2.松木場	墓地	簡易水道	町内未整備
3.高崎山	納骨堂	集落の水	町内未整備
4.谷山	墓地	集落の水	町内未整備
5.小崎	納骨堂	集落の水	町内未整備
6.魚路	墓地	集落の水	町内未整備

6-10. つきあいについて

つきあいを老人クラブについて比較すると、市崎木場が魚路より参加者の割合が大きい。今後の参加の意向については、市崎木場が魚路より希望者の割合が大きい。老人クラブに参加したきっかけは、友達に誘われて、興味があったから、小学校校区のお知らせ等となっている。また、参加したいと思わない理由は、畑づくりが忙しいからという回答があった。調査対象の6集落で、老人クラブや趣味の会に参加したいと答えた世帯は25.3%で、参加したくないと答えた世帯は37.3%だった。

6-11. 生きがいについて

半数以上の人生きがいとして、畑づくりや花づくり

【表3】生活時間

1.市崎木場 16世帯

回答者	年齢	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1-1-a	63		起床	ワーク	朝食		畑(ポンカン)松木場			昼食		昼寝		畑	買い物	風呂	夕食	TV	TV		就寝
1-1-b	66			朝食準備	朝食		畑(ポンカン)松木場			昼食		昼寝		畑	買い物	風呂	夕食	TV	TV		就寝
1-2-a	73			起床	朝食					昼食		昼寝		畑		夕食					就寝
1-3-a	72			起床	朝食					昼食		昼寝		畑		夕食	風呂	TV			就寝
1-3-b	69			起床	朝食					昼食		昼寝		畑		夕食	風呂	TV			就寝
1-4	81			起床・仏さん	茶・朝食		台所掃除洗濯・病院	草取り	野菜つくり	昼食		TV			楽しいとき草取り						
1-5-a	78			起床			農業			昼食		昼寝			農業	夕食	TV・風呂				就寝
1-6-a	79			起床						昼食				草取り・畑仕事		夕食	TV				就寝
1-7-a	73			起床	朝食					昼食		昼寝		畑		風呂・夕食					
1-8	71			起床・朝食			草取り・洗濯	買い物	TV(雨)	昼食		昼寝		ごろごろ		夕食					就寝
1-9	後居77			起床	朝食					昼食		昼寝				夕食					就寝
1-10	86									草取り・デイサービス											
1-11-a	71	5:30	起床	お茶・朝食			仕事・畑			昼食		昼寝		お茶・みかん畑	時代劇TV						就寝
1-11-b	68	3:00	起床	お茶・弁当づくり	洗濯		掃除			昼食		昼寝									
1-12-a	65			起床										農作業(つゆもの)		畑					夕食
1-14-a	68	4:30	起床	お茶・新聞																	就寝
1-15	70													外出	畑						就寝
1-16	83			起床	朝食					昼食				畑		夕食					就寝

注)無回答(7人)省略

をあげている。その次に、子ども、デイケアと続く。畑づくりや花づくりについては、【表3】の生活時間にも表われているように、高齢にもかかわらず、多くの人が午前、午後行っており、生きがいとしていることがうかがえる。

7. まとめ

以上のことから、笠沙町内の6集落の住民の生活実態が明らかになった。本研究では、地域特性の違いを持つ6集落を抽出し調査をしたが、それらが要因となった生活支援の内容に集落ごとの相違はみられなかった。そして、対象集落の中では、生活支援の要素につながる近所づきあいが行われていることがわかった。

世帯数の少ない集落は、集落単位で高齢者同士の近所づきあいがなされており、世帯数の多い集落についても近所単位でのつきあいがある。

また、高齢者の居住年数が非常に長く、古くからの近所づきあいが続いていることから、日常的な助け合いがなされている。外部の人との接触にも積極的な姿勢がうかがえ、人との関わりを大切にする傾向がみられた。それらが高齢者の精神的支えとなっていると考えられる。

以上のつきあいの内容から判断すると、公的支援ではない、地域住民の身体的、精神的な面からの支援が高齢者の日常生活を支えていると考えられる。

(謝辞)最後に調査にご協力いただいた笠沙町の市崎木場、松木場、高崎山、谷山、小崎、魚路の方々、ならびに笠沙町役場の建設課の方々に厚く御礼申し上げます。

(参考資料)

1. 笠沙町・集落別高齢者人口表 (H.11.4.1)
 2. 笠沙町・年齢別人口集計表 (H11.6.1)
 3. 笠沙町・地区地形図 1:2,500
- (*1) 日本建築学会九州支部研究報告 1999.3